

第二次の特定外来生物に選定することが適切と考えられる外来生物(哺乳類・鳥類)に係る評価の理由(案)

哺乳類・鳥類

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
ハリネズミ属	捕食、競合駆逐	・海外では鳥類の卵・雛、昆虫等を捕食して様々な影響を及ぼしており、国内での定着も確認されている。日本には地表を徘徊する肉食哺乳類が少ないために、昆虫類等を捕食することによる直接的、間接的な影響は大きいと考えられる。また、今後もさらに分布の拡大が懸念される。
在来亜種エゾリスを除くキタリス	遺伝的攪乱、競合駆逐	・エゾリスとの亜種間交雑のおそれがあり、コホリスとも遺伝的には近縁とされる。また本州に定着すればコホリスとの生息空間を巡る競合も懸念される。
在来亜種エゾモモンガを除くタイクモモンガ	遺伝的攪乱、競合駆逐	・エゾモモンガとの亜種間交雑のおそれがあり、またモモンガとの生息空間を巡る競合などが懸念されている。
マスカラット	競合駆逐、環境改変	・水生植物を中心に様々な動植物を捕食し、海外では大きな問題となっている。国内での定着地域が限られているが、他の地域に侵入すれば定着して分布を拡大するおそれがある。
アメリカミンク	捕食、競合駆逐	・強い捕食性を有し、国内で分布を拡大中であるため、生態系への影響は大きい。
在来種コホジカカの在来亜種を除くシロコホジカ	遺伝的攪乱、環境改変	・コホジカは、アカシカ、ターミジカ、サンバクなどと遺伝的に近縁であり、アカシカはコホジカやシロコホジカとの交雑が各国で報告されている。また生態的にもコホジカとの共通点が多く定着すれば森林生態系の基盤である植生を捕食により大幅に改変する等、生態系への様々な影響が懸念される。